

PROPOSAL

企業人の退職後の生き方

会社を辞めてからできることは山のようにあります。
ただし、意識を変えなければいけません。

(株) コンセプトワークシヨップ代表 佐藤修



佐藤 修
(さとう おさむ)
25年間の会社勤務を経て、1989年、(株) コンセプトワークシヨップを設立し、コモন্ズの回復をテーマに、企業、行政、NPOの枠を超えた、新しいプロジェクトの創発に取り組む。2001年、コミュニティケア活動支援センターを開設。さまざまな分野のNPOやボランティア活動をつなぐさまざまなサロンを開催している。
Mail : qzy00757@nifty.com
http://homepage2.nifty.com/CWS/

■会社の外には豊かな世界が広がっている

私は47歳で会社を辞めました。それから25年が経ちました。企業人として生きた期間とちょうど同じ期間になります。いずれもとても刺激的な25年でした。

会社を辞めた理由は、組織を離れた生き方がしてみえたからです。しかし、日本では活動する場合、組織という拠点があると都合でした。それで自分ひとりの会社をつくりました。そこを拠点に、自分が意義を感じる課題に取り組んだり、新たなネットワークを立ち上げたりしてきました。

対価をもらうことが仕事であるという

考えは捨てました。活動を通して、自分にとって価値を感じられる成果を実現することを仕事と考えるようにしました。そうした活動に共感したり価値を認めたりする人に支えられて、25年間、活動を続けています。借金は増えましたが、それを上回るたくさん「生きるうえでの大切なもの」をもらい、今はそれなりに豊かに暮らしています。経済収支は赤字ですが、豊かさ収支は大幅黒字です。

がたくさんあることも知りました。それは、実に刺激的で、会社人として培ってきた価値観を揺るがすものでもありました。しかし、ひとたびそこに身をゆだねると、実に心地よい世界であることも少なからず体験しました。そこにはまだ「心の豊かな多様な人たち」がたくさんいて、「支え合いの文化」や「自分でも解決に関われる問題」がたくさんあったからです。

私の生き方は、会社にいた場合とは全く違うものになりました。それがよかつたかどうかはわかりませんが、少なくとも私自身には生き心地のいい人生になりました。「一人称自動詞」で生きられる

ことと、すべての責任を自分で負えることは、とても気分がよいものです。経済成長には寄与できていませんが、生活にとって必要な経済が何かは見えてきました。そうした視点からは、社会が豊かになるために、ささやかですが、役立っているという実感を持てるのもうれしいことです。さまざまな世界で生きている友人が増えましたので、人生も豊かになりました。

■会社を辞めて見えてきたこと

こうした生き方を通して見えてきたことはたくさんありますが、そのひとつは、多くの人たちがなぜか自らの狭い世界をつくって、そこに閉じこもって生きているということ。その働き方や生き方は、どことなく辛そうです。働くことは、喜びに満ちた楽しいことだと思えますが、どうもそうっていないような気がしてなりません。

その反動か、会社を辞めたら、今度はボランティア活動や趣味の世界に没頭しようと思っている人も少なくないようです。それでは、しかし、会社にいた時と同じように、また狭い世界に埋没することになりかねません。

私が会社を辞めてさまざまな世界と関わる過程で強く感じたのは、さまざまな組織や人たちがつながっていないということでした。会社を辞めた翌日、住民組織と行政との話し合いに参加しましたが、いずれにも関わってこなかった者からすれば、そこには「話し合い」の基盤さえありませんでした。それぞれが自らの主張をただただ相手に説明しているだけでした。さらにいえば、それまで会社に属していた私には、いずれにも違和感がありました。私も含めて、結局、みんな自分の属している組織の枠の中でしか考えていないことに気がつきました。

そこから、私のテーマは「つながり」とか「コミュニケーション」になってきました。その時からもう25年経過しますが、そうした言葉が盛んに使われるようになったわりには、実態はあまり変わっていないような気がします。

それは、みんな「組織や立場の呪縛」から自由でないためです。一昨年の福島原発事故に関わる報道を見ていると、それがあまりにも露骨に示されていますが、それは決して特別なことではありません。組織に属していると、知らず知らずのうちに、そういう発想を身に付けて

しまいます。それに気づかず、会社を定年退職した人が地域活動に参加して起こした喜劇のような話はたくさんあります。

「組織やそこでの立場から見る社会」と「自分の生活から見る社会」はまったく違っています。どのメガネをかけて社会を見るかで、様相は大きく違ってきます。会社を辞めた時に、私が心がけたのは、そのメガネをはずすことでした。メガネをはずすと、社会の実相が見えてきます。それまでに培った固定観念から自由になって、周りを見れば、そこに広がっている豊かな文化と自らの役割が少しずつ見えてくるはず。もちろん問題点も、ですが。

■会社と社会をつなぐメディアエーター

かけているメガネを変えると、退職後、できることもたくさんあることも見えてくるでしょう。これまでの会社生活で培ったものを捨てて、新しい生き方をすることもひとつの生き方です。しかし、これまで培ったものを活かす生き方も大切です。

まず考えられるのは、会社で身に付けてきたノウハウや知識を活かすことで

す。会社で組織活動をしつかりと身に付けた人が参加してくれた結果、活動を発展させたNPOもあります。ただし、会社組織という仕組みに依存して仕事をすると、それを離れて仕事をすると、それは違います。仕組みに依存しない、いわばゼロからのマネジメントやマーケティングができるかがポイントです。仕組みが整っているところで仕事をしていると、すべてが自分でできているような錯覚に陥ってしまいかねません。その勘違いは避けねばいけません。

NPOと企業とは、価値観も言語も違います。したがって、意外と相互の関係づくりがうまくいきません。私は企業にも行政にもNPOにも関わっているもので、いずれの文化もある程度わかります、それでこれまでも、NPOと企業の橋渡しなどもしてきましたが、いい関係が構築できれば、それぞれにとってウィンウィンの関係が構築できるだけでなく、社会にとっても新しい価値が創発することも多いのです。

会社を辞めた人は、そうした企業と会社をつないでいく役割が果たせるはずで。いや、最適任者かもしれませんが、ただし、この場合も、発想の起点を変えな

ければいけません。会社のためにNPOを利用するのではなく、NPOのために会社を利用するのでもなく、それをつなげることで、新しい価値が創発しなければ意味がありません。そのためには、両者の文化を知ると共に、それぞれを活かしていくための独自の軸を持たねばいけません。それがしっかりしていれば、会社のポテンシャルを開花させることもできるでしょう。その軸は、自らも一員である社会を仲間と一緒に育てていくという軸です。

会社にいた時に培ってきた人のつながり、いわゆるネットワーク資源も、新しい世界での使いようによっては、新しい価値を生み出すでしょう。

組織に寄生した生き方から、仲間と一緒に新しい価値を育てていく生き方に変えると、人生は楽しくなってきました。しかも、大きな変わり目にある現在、社会が求めている課題は山積みです。もしかしたら、社会のみならず、自分が属していた会社にも、新しいお役立ちができるようになるかもしれません。

退職後の人生は、そういう意味ではこれまでの活動の集大成とも言えるでしょう。

行政関係者のための 新訂 入門・生涯学習政策

【主な内容】

- 第1章 生涯学習とは？
 - 第2章 日本の生涯学習の特徴
 - 第3章 生涯学習の概念整理
 - 第4章 なぜ生涯学習社会が必要か？
 - 第5章 生涯学習と行政の役割
 - 第6章 生涯学習と学校の役割
 - 第7章 生涯学習行政の課題
- 関係する用語の定義・概念

著／岡本 薫

(政策研究大学院大学教授)

2012年2月20日発行 (第5刷)

A5判 115頁

定価／1260円 (本体1200円)

送料／290円 ISBN978-4-7937-0129-0

書店にお申し込みまたは直接

TEL 03-3475-2751 FAX 03-3475-2569

までご注文下さい。